



①マンダリンを持つ萩原朔太郎

『月に吠える』(大正6年・1917)で  
彗星の如き詩壇デビューを果たした朔太郎は  
詩誌『日本詩人』(大正10年創刊)で活躍し  
日本中の文学青年を魅了しました。  
当時、小樽高商に進学した頃の伊藤整にとっても  
そのインパクトは絶大で、後年、彼は  
「ことに萩原氏からは変な影響を受けそうなので  
後は特に氏のものを読まないように努めた程で  
あった」(昭和13年「自伝的スケッチ」)と  
回想しています。



②

②ステレオ写真 朔太郎妹アイ

③ステレオ写真 縁日

(写真①～③およびチラシ表の朔太郎肖像写真は前橋文学館提供)



③

また朔太郎は無類の写真好き。  
対象を遠くから俯瞰する独特な撮影法で、画面の中に詩的世界を創り上げました。  
また、フランス製のステレオカメラを特に愛用し  
晩年病床に伏してからも、折りに触れて、立体写真を楽しみ続けました。

今年、市立小樽文学館は  
「萩原朔太郎大全2022」に賛同・協力し  
詩人・朔太郎の足跡を  
小樽出身の文学者・伊藤整の視点を通してご紹介いたします。

【主な展示内容】

萩原朔太郎肖像写真・萩原朔太郎撮影写真(風景・人物・ステレオ写真) 前橋文学館所蔵  
萩原朔太郎資料 詩集『月に吠える』『青猫』等、詩論『純正詩論』、随筆『虚妄の正義』等 北海道立図書館所蔵  
伊藤整資料 詩集『雪明りの路』『冬夜』、雑誌『椎の木』『詩と詩論』『詩・現実』等 市立小樽文学館所蔵



小樽高商時代の伊藤整

市立小樽文学館

〒047-0031 北海道小樽市色内1-9-5  
金融資料館(旧日本銀行小樽支店)向かい  
TEL&FAX (0134) 32-2388



Twitter: @otabun\_otaru